

どを持って餘した時から考へれば、非常な進歩をしたといふべきである。

事實暗黒の歴史は、此の僅かな區域に過ぎぬ地方に、支那でいえば唐以前に當つて、どんな民族がどんな言語と文字とを用いて、日常生活を營んでおつたかについてすら、おぼろげな概念も與へ得なかつたものである。しかるに今日では、前述のように不可解とされた言語も、漸く明らかとなり、その文書を讀解し得るに至つた結果、こゝに土着生活をしておつた民族は、インド、ペルシャから歐洲一帯にかけて住むものと同一型、もしくは似かよつた人種である事が判明した。古く支那に従屬する人々で、彼等は既にそれ／＼自分の國語に翻譯した經典を持つてを つたものだ。

従つて今日こゝに残され、蒐集されるに至つた文化は、またこの人種の作り出したものであつた。諸方の千佛洞にある古代美術はこの人種の愛好する所だつたので、近代の補修の上に見えるものとは、性質がちがう。支那特有の美術の上に、古く或は佛教と共に或はその他の事情の下に、此の地方のものが影響を及ぼした處ありとすれば、それはこのやうな人種の作つた美術の流れの波及であつた。もちろん、今日存する此の地の昔の美術にも各系統があり、また彼等自らの作つたものと限ることもできず、庫車の附近に在るキジル千佛洞の繪畫の如きも、中にはシリヤのキリスト教徒の書いたものと思われるものもあり、またインドの人の手になつたものなどもあるが、それはごく少ない一部分に過ぎなからう。

支那は美術の國、繪畫に巧みな國として唐の時代にモハメッド教徒の傳えてゐる一方には、同じ時代に多分陰影をつけた畫を指すのであらうが、凹凸畫といはれる一派の繪畫は、于闐の國から其の國人によつて支那に傳へら